

その時の行動

原子力防災訓練：住民参加の広域避難

「県東部で震度6強の地震が発生し、原子炉が自動停止」の想定で原子力防災訓練（2県6市）が行われ、安来市では10月30日に広域避難訓練に取り組みました。参加者は、市内の一時集結所からバスで鳥取県大山町に移動し、避難退域時検査訓練等を体験しました。



本部

① 島根原子力発電所で電源供給が停止。1週間以内に30km圏外への一時移転指示が発令。安来市は国や県などとのテレビ会議を行い、避難方針や協力体制を確認。



告知

② 市では緊急速報（エリア）メール、行政告知放送、防災スピーカー（模擬）などを使い、住民に屋内退避および避難を指示。



配布

③ 「安定ヨウ素剤」の服用指示に備え、一時集結所で薬剤を配布。以後は、薬剤を携行して一時移転を行う。



一時移転

④ 交通手段のない人のために一時集結所に避難バスを準備。30km圏外へ一時移転開始。参加者はマスクや上着を着るなど肌を露出しない格好で集合する。

⑤ 退域時検査場所に到着。まず、車両の除染作業を実施。



車両除染

⑥ 避難退域時検査（放射性物質の汚染状況を確認するための検査）を実施。係員が測定器で頭部や手指、靴底を測定。基準値以下であれば検査済証が交付される。



検査